

夏休みに向かおうとするこの時、みなさんにお話しする機会を得られたので、一緒に考えてみたいことがある。

今日は「健康」ということについて考えてみたい。私たちは「健康」をどのように定義しているだろうか。大抵は病気がなく、年齢に応じた体力を持っており、精神的にも充実していることを意味していると思う。一年間風邪をひいたこともないとか、病気が治ったり、これまで入院したこともないような人を健康だという。

しかし、私たちは健康という言葉には日常的に別の側面を持っていることを知っている。それは、私は健康だから、例えば、バスに間に合わなかったから歩いて帰るとか、すごく忙しかったから食事を抜いても平気だとか、試験が近づいたから睡眠時間を削ったとか、私たちは健康だから、少々無理をしたり、日常生活からやや逸脱した行為があっても、それを受け入れることができる力があると思っている。

だとすると、健康な社会とはどんなことだろう。人々が幸福で健康で、犯罪がない、文化的な生活を送ることができる豊かな社会とはすぐに思いつく。しかし、今、私が述べた健康の定義を適用すれば、例えば眼の不自由な方や耳の聞こえない方が自由に街や交通機関を利用できることや、身体の不自由な方やお年寄り

がいろいろな活動に参加できるというような配慮がなされていることも、社会が健康であることの証といえるのではないか。

私は長野高校が健康であってほしいと思っている。それは長野高校がいろいろな価値を受け入れることができ、仲間に配慮することができることだ。また、健康こそがみなさんが自分を伸ばすための精一杯をためすことのできる条件だ。そのような健康な集団が私たちの頑張りを支えることができる。

どうか皆さんは、仲間を大切にするとともに、長野高校に熱中する自分の姿に向き合い、それをいつまでも忘れないでほしい。5月6月の総体や、各班活動の発表、そして金鷄祭で示されたみなさんの情熱は、本当にすばらしいものがあつた。各人がいろいろな結果を手にしたことと思うが、みなさんが出会ったその一瞬にかけた真剣は、必ず将来を生きていく糧となるだろう。その成果を胸に、全校で新しいステップへ踏み出してほしい。特に、3年生は今を境に受験へと向かっていくところ。これまでに示してくれた情熱を、一つの焦点にあて、残りの高校生活を充実した悔いのないものにしてください。